

科目番号 11

授業科目名： 異文化間コミュニケーション	講義日： 12月15日（土） 12月22日（土）	単位数： 1単位	担当教員名： ロング クリストファー 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める科目区分	異文化理解		
授業の到達目標及びテーマ 「異文化理解に関する知識を深め、英語指導への応用を考えるとともに英語運用能力の向上を図る」 到達目標 (1) 中学校の英語指導において必要となる異文化理解に関する知識についてその要点をまとめ、自分の考えを英語で伝えることができる。 (2) 異文化理解について学んだ事柄を英語教育にどのように活かすべきかを理解し、それを実現するために自分の英語指導への具体的な提案を示すことができる。			
授業の概要 中学校の英語指導において必要となる異文化理解に関する知識を深める。英語における定型表現を学ぶとともに、英語が使われている国と地域の特徴的な文化について学ぶ。多文化社会における異文化交流の在り方についても検討し、日本における外国人と日本人の間の異文化間コミュニケーションに関わる諸問題についても理解を深める。授業は講義と演習によって行われ、受講者は理解したこと、考えたこと、調べたなどについてプレゼンテーション及びスピーチなどを行い、学習成果の共有を行う。			
授業計画 第1回：異文化コミュニケーションとは何か（1）：コミュニケーションモデルについての講義 第2回：グループでのデータ分析及び発表（コミュニケーション場面）（25%） 第3回：異文化コミュニケーションとは何か（2）：価値観の影響についてについての講義 第4回：グループでのデータ分析及び発表（日米の映画の場面の比較）（25%） 第5回：英語と日本語の違い（1）：発話行為（謝罪なぞ）についての講義 第6回：発話行為に関する試験（25%）及びその答え合わせ 第7回：英語と日本語の違い（2）：談話スタイルの比較について講義 第8回：グループワーク及び発表（談話スタイルの違いに関するレッソンプラン）（25%）			
テキスト：配付資料を用いる。			
参考書・参考資料等 ● 文部科学省『中学校学習指導要領解説外国語編』 ● 村野井仁（編）『コア・カリキュラム準拠 小学校英語教育の基礎知識』（大修館書店） ● 八島智子・久保田真弓（2012）『異文化コミュニケーション論—グローバル・マインドとローカル・アフェクト』出版社：松柏社			
学生に対する評価 到達目標（1） 授業中の課題（50%） 到達目標（2） 授業中の課題（25%）及び試験（25%）			